



受動から能動へ！

大雪の降った翌日、我が家に（言葉の勉強にやってきた）子供たちと雪の話を始めました。「雪が好き？」「うん、大好き！」「雪合戦ができるよ！」「雪だるま作ったよ！」「おじいちゃんちの長野では、かまくらができるよ。」「スキー最高！」「札幌の雪まつりに行きたい！」「そうそう、雪の結晶ってとってもきれいなんだよ！」いろんな方向に広がります。さらに、前夜のしんしんと雪が降り続けている写真を見せると、「うわあ、ロマンティックだなあ。」「なんだか、怖いなあ・・・」そのうちに、新潟の大雪の話になって、「雪に不満があるんだ！そんなにいっぱい降らないでって言いたいよっ・・・」「だって、雪かきや雪おろしが大変じゃないか、雪に埋もれたら、誰も助けてもらえないよ・・・」こんな風にならざるを得ない言葉かけや映像などの刺激でどんどん言葉がつながっていきます。イメージーションが広がって、単なるつぶやきから、自分の考えを伝えようと変わっていきます

考える環境を作って、きっかけを投げかけることが大切だと思います。受動から能動へ、感性豊かな子供たちの表現力、コミュニケーション力を培うアシストをしていきたいと、そして、もっと多くの子供たちへの働きかけを広めたいと思い始めています。

池本昌子 記